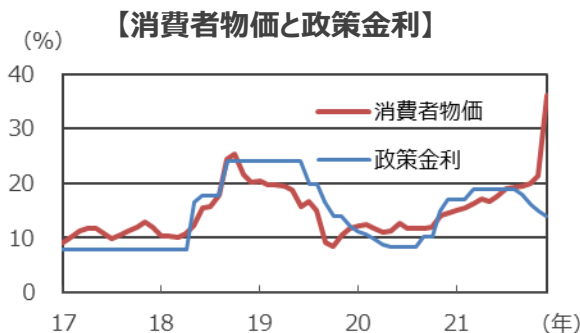




今日のトピック 激しい値動きが続くトルコリラ  
インフレが落ち着けば再評価の余地は大きい

ポイント1 トルコリラは一時大幅下落  
インフレと通貨安のスパイラルに

- トルコリラは2021年の春から9月まで対円で13円台の横ばい圏で推移していましたが、その後12月中旬にかけて6円台まで大幅に下落しました。
- 12月の消費者物価が前年比+36%になるなど、トルコではインフレが非常に速いペースで進行しています。低金利が経済にプラスに働くと強い信念を持つエルドアン大統領は、利下げを求め総裁を含む中央銀行高官を更迭し、インフレと通貨安のスパイラルを招いていました。



(注) データは2017年1月～2021年12月。消費者物価は前年比。  
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 預金補填の発表で急騰  
ポジションの偏りも背景に

- しかし、12月20日、政府はトルコリラの対ドルでの下落率がトルコリラ建ての国内定期預金の金利を上回った場合には、その差額を補填すると発表し、トルコリラは急騰しました。
- 投資家のポジションがリラ売りに大きく偏っていたこともトルコリラの大幅反発に寄与したと考えられます。



(注) データは2021年1月1日～2022年1月5日。  
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 インフレが落ち着けば再評価の余地は大きい

- 政府による預金補填はトルコ国民の預金を外貨からリラに誘導する一定の効果は考えられるものの、国内預金（トルコ中銀によると2021年11月で総額3兆リラ）と、為替市場の規模（国際決済銀行によると2019年で毎日7兆リラ）を考えると、根本的な解決策とは言い難い状況です。
- トルコリラが下落したのはインフレにもかかわらず利下げを求めるエルドアン大統領の姿勢が原因ですが、その強い信念が修正される可能性は低そうです。また、預金補填が必要な水準までトルコリラが下落すると財政赤字が拡大し、通貨安とインフレのスパイラルに再び陥る可能性があります。
- 一方、トルコの自動車・電気機器などの製造拠点としての優位性、中央値年齢33歳の若くて増え続ける人口、魅力的な観光資源、そして何より地政学的な重要性などを鑑みれば、インフレが落ち着けばトルコリラが再評価される余地は大きいと考えられます。

ここも  
チェック!

2022年 1月 6日 メキシコ金融市場 2021年の回顧と2022年の展望  
2021年12月28日 今年のマーケットを振り返る5 為替市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。